

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2006年 1月 31日

I 概要

実践団体・担当者名	富士山安全まちづくりネット (担当者： 早川 宏)	
連絡先	TEL 0555-22-0092	
プランタイトル	ペーパークラフト立体地形モデル制作による防災教育	
目的	① 子供と父兄が火山や地震について「最新」かつ「正しい知識」をもち、有事の際、安心安全な行動がとれるように図る。 ② 自作の火山立体模型や立体地震分布図を身近に置いて、家族知人などとの防災コミュニケーションの広がりを図る。	
プランの概略	① 小中学生が自作できるペーパークラフトの「立体火山模型」を開発する。 ② 小中高校生対象の火山地形のペーパークラフトを制作するワークショップを通じて、自然現象と災害について学び、防災についての関心を高め、自ら学ぶ動機を提供して自分の身は自分で守る意識を養う。 13:00～13:45 おはなしとペーパークラフトの説明 14:00～16:00 火山のペーパークラフトの制作	
プランの対象と参加人数	小・中・高校生及び教育関係者 13名 (ペーパークラフト制作による防災教育)	
実施日時	① 2005年8月18日理科教員研修会場で展示・説明・資料配布(15名) ② 2005年10月25日火山のペーパークラフト実習(13名) ③ 2005年10月26日「火山災害を軽減する方策を探る国際ワークショップ2005」(参加資格は、中、高校生、一般)に参加(4名)	
主な実施場所	① 山梨県環境科学研究所(山梨県富士吉田市) ② 暁星国際小・中・高等学校(千葉県木更津市)	
連携した団体名、 連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	山梨県環境科学研究所
	連携したきっかけ・理由	① 防災教育についてのアドバイスと協力が受けられる。 ② 最新の災害・防災知識が得られる。
	連携団体へのアプローチ方法	① 以前より面識があった。 ② ペーパークラフトの試作品を持参して協力をお願いした。
	連携団体との打合せ回数	2時間×5回(開発について) 1時間×1回(実践についての打合せ)
	連携団体との役割分担	

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	2名
	外部スタッフの総人数	
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 早川 宏（富士山安全まちづくりネット 代表） 企 画 法村香音子
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2004年12月 日 ～2005年1月 日
	立案時間	およそ20時間
	上記のうち打合せ回数	2時間× 3回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	○ 防災について自ら学ぶ興味と動機付けをどのように図るか。	
プラン立案で 苦労した点		

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	2名
	外部スタッフの総人数	2名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 早川宏（富士山安全まちづくりネット 代表） 企 画 法村香音子 学術顧問 荒牧重雄 教育顧問 小佐野親
準備に要した日 数・時間	準備期間	2005年 2月 日～ 2005年 12月 日
	準備総時間	およそ200時間
	上記の内打合せ回数	2時間× 10回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	① 理科教員研修会（山梨県環境科学研究所） ② 暁星国際 小・中・高等学校（千葉県木更津市）

	どのように働きかけたか	<p>①【理科教育研修会】会場入口に特別展示コーナーを設置させていただき、参加の教育関係者にサンプルと説明書を配布して、学校での授業や科学クラブなどで採用頂きたいと協力を呼びかけた。</p> <p>②【暁星国際 小・中・高等学校】夏休み前、夏休み後などに繰り返し学校にサンプルを先生に見せ、趣旨を説明して協力を求めた。同時に興味のある生徒にもサンプルを見せ、趣旨を説明して協力を求めた。</p>
	結果	<p>①【理科教育研修会】参加の先生にペーパークラフトには興味を持って頂けたが、採用はしてもらえなかった。</p> <p>②【暁星国際 小・中・高等学校】学校で、会場と機材を貸していただき実施することができた。小学生、中学生、高校生に参加してもらった。</p>
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	近くに住む小学校高学年の父兄
	どのように働きかけたか	ペーパークラフトのサンプルと説明書を配布した。
	結果	地域でペーパークラフトによる防災教室を開催する際は、参加したいという返事をいただいた。
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	○ 機材：スクリーン、プロジェクター、PC、作業用机
	入手先・入手方法	○ 機材：スクリーン、プロジェクター、作業用机は学校にて借用 PCはスタッフが持ち込み
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	○ 機材：映像を通じて防災とペーパークラフトの組み立て方を説明するため
参加者の募集	募集方法	<p>○ 学校にサンプルと計画説明書を携えて何度も訪ねて、趣旨を説明した。</p> <p>○ 同様にリーダー格の生徒にも何度も趣旨を説明した。</p>
	募集期間	2005年7月 日 ～10月 日
	参加予想人数	10名
	実際の参加人数	13名

	募集方法の成功点	○ ペーパークラフトのサンプルを携えて説明した。
	募集方法の失敗点	○ 案内書を沢山印刷して配布して周知を図ったならば、もっと大勢集まったと思われる。しかし多過ぎると目が届かなくなるので1回に10名前後が良いかも知れない。
準備で苦労した点・工夫した点		<p>【苦労した点】</p> <p>○ 学校にはいろいろ予定があり、先生も生徒も行事などの準備や課題提出などで忙しく、なかなか時間を取ってもらえなかった。</p> <p>【工夫した点】</p> <p>○ 繰り返し訪ねて、趣旨を説明した。</p> <p>○ 関心をもっただけそうな先生方と生徒たちの両方に協力を促した。</p> <p>○ 小学生だけで作る場合、細かく目が行き届かないと思われたので、小中学生と高校生の参加者をできるだけ同人数くらい募り、異なる年齢にグループ分けして、いっしょに制作するようにした。</p>

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月			
12月			
2005 1月	○ 1/25 打合せ		
2月	○ 2/15 打合せ ○ 2/22 打合せ		
3月		○ 3/22 打合せ	
4月		○ 4/12 打合せ ○ 4/19 打合せ ○ 4/26 打合せ	
5月		○ 5/10 打合せ ○ 5/17 サンプル制作 ○ 5/24 打合せ ○ 5/31 サンプル制作	
6月		○ 6/7 打合せ ○ 6/14 サンプル制作 ○ 6/17 先生と生徒に趣旨を説明	
7月		○ 7/12 打合せ ○ 7/26 サンプル制作 ○ 7/29 「富士山山体崩壊地層調査」	
8月		○ 8/2 打合せ	○ 8/18 理科教員研修会
9月		○ 9/6 打合せ ○ 9/13 サンプル制作 ○ 9/17 先生と生徒に趣旨を説明	
10月		○ 10/4 サンプル制作 ○ 10/11 サンプル制作	○ 10/25 ペーパークラフト制作による防災教育 ○ 10/26 国際防災シンポジウム参加
11月		○ 11/7 打合せ（融雪型土石流史跡見学） ○ 11/15 雪代災害パネル制作	
12月		○ 12/20 サンプル制作	
2006 1月			○ 1/15 スタッフ反省会 ○ 報告書作成

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	自然と防災について考える	ペーパークラフトの制作		国際防災講演会
実施日	10月25日	10月25日	10月25日	10月26日
所要時間	45分	45分	45分	午前9時30分～午後6時
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然現象と災害を知り自分の身は自分で守る意識を高める ● ペーパークラフトの手順を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ● ペーパークラフト 切抜き 	<ul style="list-style-type: none"> ● ペーパークラフト 接着・組立 	最先端の防災について学び、興味を広げ、自ら防災について学ぶ動機づけとする
生成物		火山のペーパークラフト	火山のペーパークラフト	
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ● おはなし 	<ul style="list-style-type: none"> ● 制作 切り抜いたパーツは紛失しないように小箱に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 制作 標高の高いパーツから順に貼り付ける。 	
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクター ● スクリーン ● PC 	<ul style="list-style-type: none"> ● 用紙 ● はさみ・のり・定規・カッターナイフ ● 小箱 	<ul style="list-style-type: none"> ● 用紙 ● はさみ・のり・定規・カッターナイフ ● 小箱 	
場所	教室	教室	教室	山梨県環境科学研究所

VI実践後

参加者へのアンケート結果		
成果として得たこと		
成果物	(学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。)	
広報方法	広報した先	
	広報の方法	
	取材にきたマスコミ	
	広報された内容(掲載された記事・番組等)	
	成功点	
	失敗点	
全体の感想と反省・課題		
今後の予定	来年度以降の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○ HP を開設して、より多くの人々に利用していただけるようにする。 ○ ペーパークラフトのバージョンアップ ○ 開設した防災パネル展示場と交流センターは、地域の防災コミュニケーションの場として引き続き維持する。

	是非実施してみたい 取り組み	<p>○ 郷土の災害史跡保全活動とワークショップ</p> <p>ペーパークラフト作成の基礎資料を集めるため、地域の災害実績をいろいろ調査した際、江戸時代に甚大な被害があった融雪型土石流の災害史跡の保全が適切でない様子が分かった。地域ではほとんど忘れられている災害であるが数百年のうちには、必ず再発すると思われる。記録に無いような大雪、突然の暖かい陽気、大雨などの条件が重なる時である。</p> <p>【ワークショップ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古文書の調査 2. 史跡の保存活動 3. 史跡のペーパークラフト作成 4. 見学会 <p>○ 津波災害実績図のペーパークラフト</p> <p>海岸周辺の地図を改めてみると、日本は島国で大小の入り江がたくさんある。入り江周辺に住んでいる人は、津波の危険性を充分知っていると思うが、普段住んでいない人々も旅行などで居合わせることもあるので津波の知識を持っていた方が良いと思われる。大き目の入り江周辺の街は、河川の堆積物により平坦な土地が形成されているため比較的海抜が低い。海から相当離れていても、だんだん狭くなる地形の場合巨大地震の際は津波が押し寄せてくる可能性がある。また、岬周辺も波が高くなり易い。津波の速度は海上で数百キロというが、震源から少し離れている場合、到達までに多少の時間の余裕がある。</p> <p>以上のことから、津波の知識の有無により生死が決まる場合がある。以上のことからペーパークラフトによる津波の防災教材も役立つ可能性があると思われる。</p>
自由記述	<p>イベントを実施するよりも、この報告書を完成させる方が、より手間がかかる気がした。しかし、報告書を書いてみて、これまでのさまざまな活動の中で何が問題で、これから何をしなくてはならないかを整理する機会となったので大変良かった。ご指導の先生方やスタッフの皆様には感謝をしたい。また、全国の熱心に活動されている皆様の発表を聞いて感銘すると共に心を新たにして一層の努力をしなくてはならないと思った。</p>	

